

会 議 要 旨

会 議 名	令和 7 年度 館山市コーラル会議
開 催 日	令和 7 年 6 月 1 8 日（水）午前 1 0 時～ 1 1 時 3 0 分
開 催 場 所	館山市役所 4 号館 期日前投票所
出 席 者	[委員(敬称略 5 0 音順)]合計 9 名（欠席 1 名） 石渡 秀嗣 神子 絵美 小林 栄子 斉藤 聡大 佐野 聖一 庄司 友之 鈴木 麻里 出口 洋子 西村 勝利 [市] 森市長、渡邊市民協働課長、當麻副主査
公開・非公開の別	公 開
傍 聴 人 数	0 名（定員 3 名）
会 議 内 容 議事進行 西村会長	1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 市長挨拶 4. 自己紹介 5. 会長及び職務代理者の選任 6. 議事 （1）『第 4 期館山市男女共同参画推進プラン』中間見直し版』の令和 6 年度取組結果について 【事務局より】 ・令和 6 年度の取組内容や進捗状況について報告。 総事業数 1 1 8 に対し、A 評価（おおいに取り組んだ）又は B 評価（取り組んだ）と評価した事業は 9 3 事業、C 評価は 2 5 事業だった。 （2）令和 7 年度審議会等における女性委員割合の調査結果について 【事務局より】 ・館山市の審議会等における女性委員割合は、令和 7 年 4 月 1 日現在 2 8 . 0 0 %（昨年度比 0 . 7 6 % 減）。 ・各課とも委嘱替えの際、女性の適任者の積極的な推薦を依頼しているが、依頼する団体の構成員に男性が多いため、必然的に推薦される代表者も男性が多くなっている。 ・女性が会長または副会長の審議会等は 2 4 . 3 9 %。 ・性別や役職にとらわれず、「適任者」の誰もが個性と能力を発揮できるよう、引き続き「公募委員を増やす」「各団体からの推薦委員の基準を見直す」ことが必要。

	(3) 令和7年度事業計画について 【事務局より】 ・各町内会等にLGBTについての啓発物を配布。 ・「男女共同参画週間」についてHPとSNSによる市民への周知および館山市職員への啓発。 ・千葉県男女共同参画地域推進員事業について ◆中学校出前講座 南房総地域内の中学校で開催予定。 ◆防災チラシの作成・配布 防災チラシを作成し『第46回九都県市合同防災訓練』の防災フェアで配布予定。 【千葉県男女共同参画地域推進員より】 ・どちらのセミナーも中学生の素直な意見が聞け、意義のある時間だった。 ・この中からぜひ次の推進員が出てくれたらうれしい。 【ご意見・ご質問】 (事務局) ●大阪万博ではジェンダートイレの設置が全体の40%とのこと。自分も利用してみたが、手洗い等で男女が行き交い、かなりハードルが高いと感じた。女性や子供は怖くて入れないという意見もある。そんな中『だれでもトイレ』は市ではどのくらいあるか？ ⇒本庁舎は1階にあるが、各フロアとなると難しい。 ●施設の一部のトイレの名称を「男女共用トイレ」ではなく、年齢、性別、障害の有無等に関係なく誰もが使えるトイレなので「だれでもトイレ」とした。個室の中で手洗いまで完結できるようしたことで、みんなが使いやすくなった。 (事務局) ●今年度、館山市役所では女性の課長が4名とのことだが、何か背景があるのか？ ⇒職員の男女の構成比率は、年齢が上の方は男性の比率が高いが、中堅職員以降は女性の比率が上がっている。今まで結婚・出産で退職する女性が多かったため、課長に上がれる級は圧倒的に男性が多かったが、今は違う。基本的には個人の能力を考慮するので、これから女性の課長も増えてくると思う。 ●自分の職場の共働き世帯の職員を見ると、家庭での仕事は昔よりずっと協力・分担しているように見える。しかし、それでも管理職に立候補する女性が少ない。それぞれの組織で特性があるので難しいのかもしれないが、言い続けていくことが大切。しかしあまり言いすぎると「変な人」として扱われてしまい、それはそれで難しい。 ●個人が意識を持っても、それを組織に持ち帰るのは大変なことである。大切なのは、意識を持っている人同士の横のつながり、ピアサポート（仲間同士の支え合い）、正しい知識・正しい経験の提供、組織の中の個人に依存するのではなく、組織として対応すること。ピアサポートとして達成できると達成率が高い。 ●昔、企業に勤めていた頃、管理職への女性の登用を行ったが大失敗した。有能な女性たちだったので登用したこと自体は間違いではなかったが、そこで働く男性たちが以前か
--	---

	らの考えを持った人たちだったため受け入れることができず、結果的に女性たちを潰してしまった。管理職だけでなく、周りも含めて変えなければ上手くいかない。 ●休日の元気なひろばにはお父さんがとても増えた。それはお父さんも育児をするという家庭の中の環境の変化があるからこそだと思う。 ●例えば自治会では、地域の環境、それに伴う中規模の環境、さらに小規模の現場がある。ポイントだけ女性に変えるのではなく、すべてをトータルして進行していかなければうまくいかない。 ●最終目標は多様性を重んじる社会。女性委員割合はそのための指標であり、目標数値には届いていないが、何とか女性を増やそうという意識付けになっているので問題ないと思う。対象者の方が暮らしやすいと思ってくれ、その結果数値が上がったら、取組が良かったと思えばいい。 逆に、数値だけが上がっても「よかった」とは一概には言えないと思う。 ●パートナーシップ制度は全国の人口カバー率が90%を超えているというデータがあるが、県南ではまだ導入が進んでいない。実際に「パートナーシップが無いので、館山から引っ越す」という人がいた。制度があることは税収増や暮らしやすさに直結することなのだと思う。市で取組等、何か考えていることはあるか？ (事務局) ⇒県内で導入する市が増えており、前向きに検討しなければいけない段階にきていることは承知している。近隣市への視察を行う等、情報収集は行っているが、導入するかどうかの検討には至っていない。 ●LGBT当事者はそのことを隠したがることが多い。心理的安全が確保され、お互いの関係ができてやっと「実は…」と打ち明けられるようになるので、「パートナーシップを導入してほしい」という声を上げるのは難しいと思う。 ●性自認は早期から存在し、それによる自傷行為は10代が一番多い。社会からの圧力からのサポートについて、学校ではどうしているか？ →『性』というテーマへの関心は高まっている。しかし教員自身が自分達の認識があっているのか不安を感じているように思う。 (事務局) ⇒通常の学校活動ではもちろんだが、学童保育でもトイレなどの配慮がされている。 ●男女共同参画やLGBTの話を書く機会、自分から声を上げる機会というのはなかなか無い。チラシをもらっても、そこに行く勇気が無い。 ●もう大人の息子たちが昔、学校の調理実習の後、家で食事を作ってくれた。そういう経験をさせ、見守るという環境を整えるのが家庭や地域の役割。環境は大事。 ●子どもと話をしている中で、調理実習を担当しているのが男性教諭だと聞き、自分の中のアンコンシャスバイアスに気が付いた。 ●最近の学校は生徒会に女子生徒が多いように思う。子どもたちの中では性別に関係なく、やりたいことができる世の中になっている。 ●みんなが「そういうこともあるよね」と気持ちにゆとりを持てる社会にすることで、他人も受け入れられるのだと思う。 ●昔の会議は「みんなで進めよう」という場面でも、最終的には「多数決」だった。今は
--	---

10人いたら10通りの考えがあり、「とりあえず全部やってみよう」となるが、正直、面倒だと感じることもある。世の中が「やっぱり昔の方がよかったよね」という流れにならないよう、きちんとしたルールや仕組みを作らなければいけないと思う。

- 自分の中には、親世代から吸収した考え方が凝り固まっている。しかし自分の子どもたちは、家庭内の仕事は分担するものという環境で育ったので、それぞれがそれぞれのポジションで生きている。こういう事を議論しなくてもいい世の中にするために、今の大人は何をしなければいけないのか。

7. その他

【事務局より】

- ・「デジタル人材育成事業業務委託プロポーザル審査委員会」委員にコーラル会議委員から1名推薦したことを報告。

【ご意見・ご質問】

- LGBTに関する講演、研修は斉藤委員に相談。

8. 閉会